

平成22年度 会長就任の挨拶



横須賀三浦放射線技師会会長 服部 祐治

会員、賛助会員の皆様にはご健勝でお過ごしのことと思います。

去る3月27日に開催された平成21年度総会において、再度会長職を拝命し改めて身の引き締まる
思いと責任の重さを痛感しております。

すでにご承知のように、この4月から横須賀市民病院が公設民営化となり、新体制で稼働することに
なりましたが、これまでにってきた形態を変更することは、勤務する人たちにとっても大きな苦悩や
苦労を伴います。

私たちの地域でも確実に医療情勢が変化し、医療を行う側も受ける側も戸惑いを隠せない状況にあり、
この流れがどこに向かっているのか、どのような形で収束していくのか、各方面で色々なご意見が出され
討論もされていますが、政治の政権交代に伴い混沌としてまだ予想のつかない状況です。

さて、当会は過去において記念事業など、他の地域からも羨望されるような大きな事業を展開して
まいりました。この大きな事業の成功の秘訣は、60年の歴史を持つ誇りと集結した力が成せた業であり、
あらためて当会の持つ潜在的な底を感じることが出来ます。

しかし今、めまぐるしく変化する医療情勢に対応するために、どのような姿勢で臨むべきかの判断が問われ
ています。「今は力を使うときにあらず力を蓄えるとき」ある程度の方向を見極めてから動くことが肝要と
考えております。

総会でご承認をいただいた平成22年度の事業計画については、前年同様の規模で推移できればと思って
いますが、理事の減少は避けられないものとなり、新役員の方々の意向を汲み、出来るだけ負荷のかから
ない範囲の中で活動ができればと思っています。

継続は力なりと申します。やがて来る百年の大計のために、皆様のご協力をお願い申し上げご挨拶と
致します。

平成22年5月2日